



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2012. 8

第30号

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



『但州出石城下之図』(左上に有子山城、中央下に出石城が描かれています。3頁右上の写真と対照してご覧ください。)

第27回企画展 但馬の城と館

但馬地域には200か所以上、その中でも豊岡市内には100か所以上の城があります。城と聞くと、天守閣がそびえ、高い石垣や広い濠がある姿を想像しがちです。しかし、このような豪壮・華麗な城は、織田信長や豊臣秀吉が全国統一に奔走した織豊時代から江戸時代にかけて造られたものです。一方、南北朝時代から戦国時代にかけての激動期に使われた城は、山中に造られた石垣をもたない城で、中世城郭とよんでいます。但馬の城のほとんどは中世城郭なのです。

今回の展覧会では、但馬の城と館に焦点を当て、城の構造や出土資料から但馬の歴史を紐解きます。この機会

に、武士を中心とした壮大な歴史の流れを感じていただければ幸いです。

■会期 平成24年8月30日(木)～11月27日(火)

■展示協力機関・個人 (50音順・敬称略)

朝来市教育委員会 朝来市埋蔵文化財センター

いずし古代学習館 香美町教育委員会

豊岡市立出土文化財管理センター

兵庫県立考古博物館 養父市教育委員会

池田征弘 石松崇 中島雄二 西尾孝昌 藤田淳

山根実生子 吉田順一

● 中世城郭の構造

中世の山城は、険しい山を城砦化し、そこに立て籠もって味方の生命や財産を守るための防御施設。したがって、敵が攻めにくく、味方が守りやすくする必要がありました。

山頂や尾根筋を階段状に削って平らな陣地を造成したものを曲輪といい、曲輪やその斜面を人工的に削ったものを切岸といいます。曲輪が広ければ大勢の守備兵を収容でき、切岸が高いほど敵の攻撃を防ぎやすくなります。山頂に設けられた中心的な曲輪は、主郭とよぶ最後の砦。ここを攻略されたら落城となるのです。

戦国時代になると、城の防御施設は大規模になります。尾根筋の防御効果を高めるために、尾根筋に対し直角に掘りこんで障害を設けた堀切や、谷部など斜面からの敵の攻撃を防ぐ竪堀なども造られ、城はより強固なものになっていきました。なお、高い石垣をもつ近世城郭は、織豊時代から江戸時代にかけて造られるようになったものです。



中世城郭の遺構の名称
豊岡市竹野町・轟城をもとに作成。原図：吉田順一氏

● 中世寺院の城砦化

鎌倉時代～戦国時代にかけて、天台宗・真言宗の密教寺院や、八幡宮・熊野山宮の別当寺などが山中に造られました。これらは「山林寺院」または「山岳寺院」とよばれていて、但馬にも多くの山林寺院が築かれていたことが分かっています。

山林寺院は、もともと人々の信仰を集める聖なる場所でした。しかし、境内に柵や柵をめぐらせれば曲輪となり、簡単に防御機能を備えることができます。そのため、戦国時代を中心に、大名によって山林寺院の城砦化がおこなわれ、寺院も戦乱に巻き込まれていったのです。



進美寺遺跡の発掘調査（豊岡市日高町）
中央奥に石垣が見えます。

● 中世の但馬-山名氏-

南北朝時代、但馬では三開山城（豊岡市木内など）を主戦場として、南朝・北朝の攻防が繰り返されました。貞治2年（1363）、南朝軍の山名時氏が北朝軍に帰順すると、山名氏の室町幕府に対する忠誠が認められ、時氏の長男である山名師義に但馬守護職が与えられました。山名一族はその後支配地を広げ、一時は室町幕府最大の勢力を誇りました。しかし、応仁元年（1467）に始まった応仁の乱以後、山名氏は勢力を失い、活躍の舞台を但馬に移すようになったのです。

戦国時代には、織田信長の家臣・羽柴秀吉による進攻を受け、2週間あまりで17～18の城が攻め落とされました。当時の但馬守護・山名祐豊は、本拠地であった此隅山城（豊岡市出石町）を脱し、大阪・堺に逃れました。祐豊は一旦許されて出石に戻りますが、再び秀吉による第2次但馬攻めで有子山城（豊岡市出石町）を攻略され、山名一族は但馬から去りました。以後、但馬は織豊政権の支配下に置かれることとなったのです。



『但州一覽集』
三開山城での戦いなどについて記されています。



仙石秀久肖像画
通称権兵衛。出石藩仙石家初代。信長・秀吉・家康に仕えました。

発掘された中世城郭

鎌倉時代末から南北朝時代の動乱期になると、南朝軍と北朝軍の攻防が各地で起こったため、但馬でも数多くの城が築かれました。

しかし、南北朝時代に築かれた城は、改修されながら戦国時代にも使われているため、旧状を残している例はほとんどありません。

戦国時代には、戦が日常かつ規模も大きくなったため、城も大規模化するとともに、防御施設も進化していきました。

このような城の移り変わりを、発掘調査の成果から見ていきましょう。



有子山城跡と出石城跡（豊岡市出石町）



かめがさき
亀ヶ崎城跡（豊岡市福田・森津）
南北朝時代に築城され、戦国時代に豎堀によって補強・改修されています。



びくりに
美久仁城跡（豊岡市竹野町）
曲輪をほぼ全周させる、土塁をともなう横堀によって防御が強化されています。



なかのこうあさひ
中郷朝日城（豊岡市中郷）
主郭を帯曲輪や豎堀で防御しており、戦国時代末期に改修されたと考えられます。



とりい
鳥居城跡（豊岡市出石町）
曲輪や豎堀を確認しました。有子山城の支城と考えることができます。
兵庫県立考古博物館写真提供



こうちだに
耕地谷城跡（豊岡市九日市下町）
小規模な城。防御性が低く、村人が一時的に避難する逃げ城だったのでしょう。
兵庫県立考古博物館写真提供



いわい
岩井城跡の主郭（豊岡市岩井）
主郭から三方向に延びる尾根に長い曲輪を配する、小規模な城です。
兵庫県立考古博物館写真提供



あま
尼城跡（豊岡市岩井）
室町時代に築城後、戦国時代に堀切や豎堀で改修され、江戸時代まで使用され続けました。



びんごしゅうやま
備後衆山城跡（豊岡市日撫）
小規模な城。すぐ北側には田結庄氏の本拠であった鶴城があり、この城は田結庄氏が築いた支城だったと考えられます。



ふくにし
福西城跡（香美町村岡区）
大規模な曲輪や堀切が特徴です。
香美町教育委員会写真提供

● 豪壮な近世城郭

天正5年(1577)、織田軍が但馬へ進攻して以降、主郭全体を囲んだ横堀や石垣造りの虎口など、新しい特色をもった城が現れます。これらは、織田氏勢力が築いた城郭と共通する特色であり、織田氏側が但馬攻めの際に築いた陣地と考えられています。

さらに、天正8年(1580)以降になると、織田・豊臣政権下の大名によって総石垣造りの城郭が築かれます。朝来市の竹田城や養父市の八木城、豊岡市の出石城がその代表であり、典型的な近世城郭として全国的にも有名です。



出石城跡・旧二の丸虎口



竹田城跡
朝来市ホームページ「フォトギャラリー(竹田城跡)」より

● やかた 館 一 武士の生活一

瓦葺きの天守閣に「殿様」が暮らす近世城郭(姫路城や大阪城など)とは異なり、中世の城は戦いの時のみに立て籠もるためのもので、平時には城主は山のふもとの館で暮らしていました。

豊岡市出石町宮内にある宮内堀脇遺跡からは、山名氏の武家屋敷群などの遺構が見つかっています。調査では、武家屋敷の外側を囲む堀と土塁、その中にある建物の跡などが見つかり、土器や木製品、金属製品など当時使われていた遺物も大量に出土しました。そこからは中世の武士の暮らしの様子がよみがえってきます。



宮内堀脇遺跡の調査
兵庫県立考古博物館写真提供



人名墨書土器
兵庫県立考古博物館写真提供



輸入陶磁器
兵庫県立考古博物館写真提供



はいさじ
灰匙
兵庫県立考古博物館写真提供

● お知らせ

■ 講演会「但馬の城の移り変わり」

日 時：平成24年9月30日(日) 午後1時30分～
会 場：但馬国府・国分寺館 映像ホール
講 師：西尾孝昌氏(但馬考古学研究会代表幹事)
*予約不要。聴講には入館料が必要です。

■ 見学会「城跡を歩く」(雨天中止)

日 時：平成24年11月4日(日) 午前9時～
講 師：西尾孝昌氏
*宵田城跡と国分寺城跡をめぐる(健脚向き)。
*参加無料。要予約(定員30名)。当館までお電話でご予約ください(TEL 0796-42-6111)。

● 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



- 開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週水曜日
(祝日は開館し、翌日休館)
12月28日～1月4日
- 入館料 大人 500(400)円
高校生 200(150)円
小中学生 150(100)円
*()は20名様以上
*県内小中学生は無料
*65歳以上の方は半額

■最新情報はホームページもご覧下さい。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



国分寺館キャラクター
たじまろ・くにひめ



ホームページQRコード